おしるをこぼした日

昭和六十一年度　三年　女児

おしるのしょっかんをおこうとしたら、かたむいて次々にこぼれてしまいました。とっさにふたをぎっちりおさえたけれど、まだでてきました。わたしは、ゆかに広がったおしるを見ながらどうしよう、早くふかなくちゃとあわててしまいました。すぐロッカーのところに走っていって、ぞうきんをもってきました。でもおしるは半分もこぼれたのですぐにはふけません。わたしがふいていると、じゅりちゃんと理絵ちゃんが手つだってくれました。その後、気がついた友だちが次々手つだってくれて、だれかが、先生をよびにいきました。わたしはしかられるかなあと思ったけど、先生はしからなかったので、ほっとしてふいていました。先生が、

「バケツもってきなさい。」と言いました。ふくのをやめてもってこようとしたら、あかねちゃんが、

「直子さんは、ふいでれ。」と言って、とりに行ってくれました。

バケツの中に、とうふやほうれん草がたまりました。今度は、先生が、「ちがうバケツさ、水くんでこい。」と言いました。また、あかねちゃんたちがさっととりに行ってくれました。本当は、わたしがやらなければならないのに、まわりの友だちがやってくれるのでうれしかったです。わたしはやっとのことで、あかねちゃんたちに、

「ありがとう。ごめんね。」と言いました。みんなで バケツのきれいな水でぞうきんをあらいながら、ゆかをたてにふいたり、横にふいたりしました。水が茶色になってきました。先生が、「水、とりかえてこい。」と言いました。みんな自分のことでないのに、いっしょうけんめいしてくれました。さいごに、先生が、

「そっちから、おしてこい。」と言ったので、ぞうきんでおしるをおしました。反たいがわから先生もおしてきたので、まん中におしるが集まりました。それをぞうきんでぱっぱと、つかんでバケツに入れました。やっとゆかは元通りになりました。

もう十二時四十分近くになっていました。一人でやったら、きっと給食の時間にはできなかっただろうと思いました。急いでお汁を持って、おぼんにのせました。

給食を食べていたら、先生がよぶので行ってみたら

「おしるこぼしたから、みんなに、ひとこと言った方がいんでねが。」と言いました。わたしは、そうすることこしました。でも、どういうふうに言えばいいかこまりました。みんなからもんくを言われるかなと想いました。わざとこぼしたんじゃないけど、みんなには、めいわくをかけたからあやまらなくてはと思ったからです。それに、みんなに、手つだってもらって、うれしかったことも言おうと思いました。先生が、手をたたいてから、

「直子さんからお話があるそうです。」と言いました。わたしは、

「はいぜん台がななめになっていたので直そうとしたらしるのしょっかんがかたむいておしるがこぼれてしまいました。ごめんなさい。手つだってくれてありがとう。」と言いました。なんか、なみだがたまりました。みんな、もんくを言わなかったのでほっとしました。」先生が、

「みんなは、おしるが少なくてもぶつぶつ言わないし、すすんで手つだってくれてえらかったね。」と言ったら、こうすけ君が、

「あだりめだ。」と言いました。みんなも、

「んだ。」と言ってうなずいてくれました。わたしは、ああよかったと思いました。